

令和8年度 事務事業評価シート（1）

〔 令和7年度事務事業 〕

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	地域リハビリテーション活動支援事業				事業番号	011-266	
担当部署名	健康福祉局	局	長寿社会部	部	長寿支援課	課	

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本 計画2025	施策 との 関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(4)高齢者が住み慣れた地域で心豊かに暮らし続けられる社会の実現		
			有	取組の方向性	①自立支援・介護予防・健康増進の推進				
		寄与 する KPI	有・無	指標名	前期高齢者の要支援認定率				
	有		現状値	2.83%(2019年度)		目標値	2.30%(2025年度)		
	堺市SDGs 未来都市計 画 2021-2025		施策 との 関連	有・無	ゴール	ゴール(3)すべての人に健康と福祉を		ターゲット	3.8
		有		取組	地域包括ケアシステムの推進				
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—				
			無	現状値	—		目標値	—	

2	関連計画	堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和6年度(2024)～8(2026)年度）		
3	事業開始年度	平成 29 年度	点検対象年度（堺市基本計画2030）	令和 12 年度
4	実施根拠	介護保険法		

事業の概要

5	事業の実施主体	本庁					
6	事業の対象	要支援認定を受けた方で介護予防・日常生活支援総合事業のサービスを利用中又は利用予定の方。				対象数	単位
						約15,000	人
7	事業の目的	介護保険の基本理念である「要介護状態等の軽減又は悪化の防止に資する」に立ち返り、多職種協働でケアマネジメントを検討することで、高齢者のQOL（生活の質）の向上とケアマネジメントの更なる質の向上をめざす。					
8	事業内容	【ケアマネジメント検討会議までの流れ】 サービス利用前若しくはケアプランの更新時期を迎えた対象者について、リハビリ専門職とケアマネジャーが訪問し協働でアセスメントを行い、生活課題を抽出し、目標の設定や必要とするサービスについて提案し、サービス利用開始から3ヶ月後に効果検証を行う。 【実施方法】 プランナーによるケース概要説明の後、アドバイザーによる質問・提案を経て、今後の支援方針のまとめを行う。 【参加者】 ・司会：基幹型地域包括支援センター ・事例提供者：居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・通所訪問サービス事業所 ・アドバイザー：理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士 ※国・府の基準より上回って実施した内容					
9	主な支出先	(株) アクティブ、和泉リハビリ訪問看護ステーション、シャローム晴れる家大仙公園、ベルアルト					
10	公民連携・協働事業	—					

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標	単位		実績		目標	目標
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
	介護予防ケアマネジメント検討会議において検討したケース数	件	目標値	126	126	126	126
			実績値	79	107		
			達成率	63%	85%		
	当該指標を選定した理由	本事業は、対象者の自立を支援する事業であるため、会議で取り上げた件数を成果指標とした。					
	目標値の設定根拠・算出方法	おおむね各地域包括支援センター（21か所）が2か月に1件提示することを前提とした。					
12	活動指標	単位		実績		目標	
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	アセスメント訪問実施件数	件	目標値	126	126	126	
			実績値	106	134		
			達成率	84%	106%		
	当該指標を選定した理由	ケアマネジメント検討会議の対象に繋がるアセスメント訪問の実施件数を活動指標とした。					
	目標値の設定根拠・算出方法	おおむね各地域包括支援センター（21か所）が2か月に1件提示することを前提に設定した。					

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	地域リハビリテーション活動支援事業	事業番号	011-266
-------	-------------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

	項 目	令和5年度	令和6年度	令和7年度		令和8年度
		決算	決算	当初予算	決算	当初予算
13	事業費（a）	2,808	2,294	3,504	2,749	3,504
	財 国支出金	702	574	876	687	876
	源 府支出金	351	287	438	344	438
	内 市債	0	0	0	0	0
	訳 その他（被保険者保険料）	1,405	1,147	1,752	1,374	1,752
	受益者負担金(使用料、手数料等)	0	0	0	0	0
	一般財源	350	286	438	344	438
14	人件費（b）	8,100	8,100	8,400	8,400	8,700
15	年間経費（c）=(a)+(b)	10,908	10,394	11,904	11,149	12,204

事業費の内訳

（単位：千円）

	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
		R7	決算				R7	決算		
16	アドバイザー出務謝礼金	R8	予算	3,399	425		R8	予算		
		R7	決算	76	10		R7	決算		
	その他	R8	予算	105	13		R8	予算		
		R7	決算				R7	決算		
		R8	予算				R8	予算		
		R7	決算				R7	決算		
		R8	予算				R8	予算		
		R7	決算				R7	決算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

	区 分	単位	令和6年度	令和7年度
			185	241
17	① ケアマネジメント検討会議開催回数及び訪問回数	回	2,233	2,673
	② 上記①にかかる年間経費	千円	12,070	11,091
	③ 単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位		
算出についての説明等		会議及び訪問に従事した専門職への謝礼金（会議は1回につき4～5名参加、訪問は1回につき1名11,000円）		

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	本事業は、リハビリ専門職によるアセスメント訪問を実施した後、ケアマネジメント検討会議で事例を検討している。訪問ケースの中には、リハビリ専門職が提案するサービス利用や自主トレーニングを継続することで、身体機能が改善するなど、リハビリ専門職の介入により自立を促せたケースも見られ、高齢者の重度化防止、QOLの改善に効果的な事業である。
----	---

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	アセスメント訪問を実施し、実際に対象者を見てアセスメントを行うことで、対象者についての具体的な助言を行うことができるため、ケアマネジメントの質の向上や、自立支援に向けた取組に寄与している。
----	--

令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）

20	必要性	■ 高い □ 低い	自立支援に資するケアマネジメントサービスを推進することにより、高齢者のQOLの向上を図ることができており、今後も高齢化の進行が見込まれる中で、必要性・有効性が高い事業である。
	有効性	■ 高い □ 低い	